

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	千葉県富津市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	房州石の歴史調査並びにシンポジウムの開催 及び広報利活用事業		【計画の改善時期】 平成 年度
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
「富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、地域の文化遺産の継承・啓蒙及び文化遺産を活用した地域活性化を図るため、下記の事業を実施する。なお、本事業を推進するにあたり平成29年度まで実施してきた鋸山石切丁場調査の結果を踏まえるとともに、行政、教育機関、民間団体、NPO、観光協会などと連携し、広く地域全体で文化遺産を保存・継承し、活用していくための体制の確立を目指す。 さらには、平成33年度までを目安に、「石のまち」という金谷地区における地域ブランドを地域全体で活用し、地域の活性化を継続して図ることができるようにする仕組みを整備することを狙いとし下記事業を実施するものである。 平成23年度実施事業 1. ボランティアガイド養成事業 2. 鋸山・房州石の歴史情報発信のためのホームページ作成 3. 第3回金谷石のまちシンポジウム開催事業 4. 房州石パンフレット作成 5. 房州石（鋸山、売津石切り場）現地調査事業 平成24年度実施事業 1. スマートフォンを活用した鋸山遺構案内、歴史ガイドシステムの構築 2. 房州石図録の作成 3. 第4回金谷石のまちシンポジウム開催事業 4. 房州石（鋸山、売津石切り場）現地調査事業 平成25年度実施事業 1. 文化遺産情報発信事業（鋸山・房州石遺構マップ作成） 2. 第5回金谷石のまちシンポジウム開催事業 3. 房州石（鋸山、売津石切り場）現地調査事業 平成26年度実施事業 1. 第6回金谷石のまちシンポジウム開催事業 2. 房州石（鋸山、売津石切り場）現地調査事業 平成27年度実施事業 1. 石切場ガイドマップの作成 2. 第7回金谷石のまちシンポジウム開催事業 3. 房州石（鋸山、売津石切り場）現地調査事業 平成28年度実施事業 1. 鋸山パンフレット作成（英語版） 2. 第8回金谷石のまちシンポジウム開催事業 3. 房州石（鋸山、売津石切り場）現地調査事業 平成29年度実施事業 1. 第9回金谷石のまちシンポジウム開催事業 2. 房州石（鋸山、売津石切り場）現地調査事業 平成30年度実施予定事業 1. 第10回金谷石のまちシンポジウム開催事業 平成31年度実施予定事業 1. 第11回金谷石のまちシンポジウム開催事業 2. 房州石（鋸山、売津石切り場）現地調査事業 3. 首都圏よりの鋸山モニターツアー実施 平成32年度実施予定事業 1. 第12回金谷石のまちシンポジウム開催事業 2. 房州石（鋸山、売津石切り場）現地調査事業 3. 外国人観光客向け鋸山ガイドツアー 平成33年度実施予定事業 1. 第13回金谷石のまちシンポジウム開催事業 2. 房州石（鋸山、売津石切り場）現地調査事業 3. 外国人観光客向け鋸山ガイドツアー			
6 実施体制			
富津市が、本実施計画に係る全体の企画・調整や各補助事業に係る指導等を行う。 1. 主な担当課、役割 - 富津市教育委員会生涯学習課：全体計画の指導、文化財としての取り扱い等に関する指導、史跡指定等に向けての検討 - 富津市商工観光課：石切り丁場観光利活用連携、広報 2. 補助事業実施団体 - 房州石調査研究実行委員会 - 構成団体：富津市教育委員会、富津市観光協会天羽支部、金谷ストーンコミュニティー、横浜スクランブル調査隊、早稲田大学建築学科、売津古道を復活させる会			

7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 14,394 千円	平成30年度申請額： 544 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
1. 想定される効果 これまでの活動により、鋸山での房州石の歴史に関する認知度も上がり、房州石をきっかけとした国内外との交流も増えてきており、次の効果が期待できる。 (1) 観光需要の増加、地域の活性化 鋸山への登山客はかつて山中の日本寺やそこから眺める眺望を楽しむ顧客が大半であり、町の中への回遊性も低く地域の活性に寄与している部分は限定的であった。鋸山の石切の歴史文化、かつて切出した石切り丁場、そしてその風景が残る地域の町並みを広報していくことにより地域内での回遊性、滞留人口が増加し、地域経済の活性化を図ることができる。また、英語によるパンフレットを作成し、これを活用することにより、増加の一途を辿る海外からの観光客数の増加が期待できる。 (2) 地域の歴史文化発信による啓蒙活動 明治から昭和初期には町の80%の住民がなんらかの形で房州石の採石に携わっており、最盛期には年間56万本が鋸山から切り出された。かつての町の繁栄や日本の近代化を土台から支えた房州石の歴史をひも解きその情報を啓蒙することにより、地域住民の誇りを喚起することができる。また、地元金谷小学校では房州石の歴史研究を行う「石の教室」を数年前から実行しており、地域の歴史文化を子供たちに継承する取り組みも行われ、地域の誇れる文化遺産としての認識も高まってきている。 (3) 房州石がつなぐ地域間文化交流 房州石は東京湾沿岸はもとより、運河をのぼり埼玉県奥部まで消費地が広がっており、横浜港をはじめとする港の護岸や上下水道などの公共工事から、ひいては草加せんべいを焼く炉や、パン焼き窯まで浸水性や耐火性の特性を活かして色々な用途に使われてきた。それら消費地と“房州石がつなぐ”地域間文化交流へと発展してきており、さらに交流先を増やしていきたい（横浜市スクランブル調査隊、横須賀市浦賀地区、靖国神社、東京都品川区、草加市との文化交流）。 (4) 現地調査による文化遺産の保存、利活用方法の検討 鋸山の石切り場の現地調査を実施し、遺構の現状を正確に把握することにより、歴史文化遺産の保存、次世代への継承及びその利活用方法についての検討に資することができる。また将来的に市、県の史跡承認も視野に入れ、文化財としての価値を高めることにより、房州石の歴史という歴史的に厚みのある観光地としての地域活性化を図っていく。 2. 効果の測定方法 (1) 各補助事業の参加者数、来場者数の把握 (2) 鋸山ロープウェーの乗車数、日本寺への入山者数、東京湾フェリーの乗船客数・鋸山への入山者の目安となる平成33年度の鋸山ロープウェーの年間利用者数については50万人を成果指標の目標として設定する。 (3) 行政機関関係部局等が発表する観光及び経済に関する統計の分析			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	鋸山に遺る車力道の修復及び案内看板の設置		
事業概要：	鋸山車力道の整備		
事業概要：	地元金谷小学校での「石の教室」の実施（耐熱性に強い房州石窯体験）。		
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
特になし			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	富津市教育委員会教育部生涯学習課（文化係）		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	鋸山ロープウェイの輸送実績			関連事業:	①、②	
目標値 1 :	【現状値】 平成 28 年度 45 万人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 50 万人					
設定根拠 1 :	地域の文化遺産である鋸山への入山者の目安として鋸山ロープウェイの輸送実績を参考としている。 補助事業が始まった平成23年度から平成27年度にかけては毎年平均年間1万5千人程度の増であったのに対して、平成28年度以降の輸送実績は上記年度間の55%程度の増加となる年間平均8千5百人程度の増を想定している。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
46.5 万人	万人	万人	万人	万人	万人	
30%						
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 2 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	ホームページ (URL : http://www.nokogiri-yama.jp) の累計アクセス件数			関連事業:	①、②	
目標値 2 :	【現状値】 平成 28 年度 12,000 アクセス (累計件数) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 22,000 アクセス (累計件数)					
設定根拠 2 :	平成 2 3 年度にホームページを立ち上げて以来、年間平均で2,000件程度のアクセスがあったため、今後も同規模の水準でのアクセスがあることを想定し、目標値を設定していたが、諸事情により、平成 2 9 年 3 月に新規にホームページを作り替えなければならなくなった。そのため、現状値と目標値を下方修正することになった。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
13,300 アクセス (累計件数)	アクセス (累計件数)	アクセス (累計件数)	アクセス (累計件数)	アクセス (累計件数)	アクセス (累計件数)	アクセス (累計件数)
13%						

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	石のまちシンポジウム開催事業					実施団体：	房州石調査研究実行委員会				
事業区分：		普及啓発				事業期間：		平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：		平成20年から続く鋸山現地調査の最新状況、房州石の消費地をはじめとする各地の石の研究者からの情報、石切場の保存及び利活用などについて発表及び意見交換を行うとともに、市民が地域の文化遺産に触れる機会を設け、歴史遺産へ向けた意識の高揚を図る。									
評価指標区分：		・その他					(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：		ホームページ (URL : http://www.nokogiri-yama.jp) の累計アクセス件数									
目標値：		【現状値】 平成 28 年度 12,000 アクセス (累計件数) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 22,000 アクセス (累計件数)									
進捗状況：		各年度、状況値、目標に対する達成率									
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
13,300 アクセス (累計件数)	アクセス (累計件数)	アクセス (累計件数)	アクセス (累計件数)	アクセス (累計件数)	アクセス (累計件数)						
13%											
事業②：	房州石（鋸山、売津石切り場）現地調査事業					実施団体：	房州石調査研究実行委員会				
事業区分：		記録作成				事業期間：		平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：		東西2kmと広範囲に及ぶ鋸山石切り場の現地調査、特に鋸山中腹とロープウェー以西の稜線付近の調査を行い、地域内の房州石の採石の全容を究明していく。									
評価指標区分：		・その他					(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：		鋸山ロープウェーの輸送実績									
目標値：		【現状値】 平成 28 年度 45 万人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 50 万人									
進捗状況：		各年度、状況値、目標に対する達成率									
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
46.5 万人	万人	万人	万人	万人	万人						
30%											